

2022年2月27日 午前礼拝
「罪と決別し続ける」 説教者:堺希望伝道師

【引用聖句】

Iヨハネ3:4~10

- 4 罪を犯している者はみな、不法を行っているのです。罪とは律法に逆らうことなのです。
- 5 キリストが現れたのは罪を取り除くためであったことを、あなたがたは知っています。キリストには何の罪もありません。
- 6 だれでもキリストのうちにとどまる者は、罪を犯しません。罪を犯す者はだれも、キリストを見てもないし、知ってもいないのです。
- 7 子どもたちよ。だれにも惑わされてはいけません。義を行う者は、キリストが正しくあられるのと同じように正しいのです。
- 8 罪を犯している者は、悪魔から出た者です。悪魔は初めから罪を犯しているからです。神の子が現れたのは、悪魔のしわざを打ちこわすためです。
- 9 だれでも神から生まれた者は、罪を犯しません。なぜなら、神の種がその人のうちにとどまっているからです。その人は神から生まれたので、罪を犯すことができないのです。
- 10 そのことによって、神の子どもと悪魔の子どもとの区別がはっきりします。義を行わない者はだれも、神から出た者ではありません。兄弟を愛さない者もそうです。

【説教要約】

① 罪からの救い主イエス様

罪を犯している者はみな、不法を行っているのです。罪とは律法に逆らうことなのです。キリストが現れたのは罪を取り除くためであったことを、あなたがたは知っています。キリストには何の罪もありません。

Iヨハネ3:4-5

前回から、愛と義の関係について聖書から見ています。愛することは、聖書で言われている最も大切な要素ですが、愛することがどういうことなのかを知るためには義について知ることが必要不可欠です。

なぜなら、愛は感情の要素もありますが、相手に愛が伝わる時はいつも行為が伴っているからです。

そして、神様のみこころが記された律法には、神様と人を愛するための行為が書かれているのです。一番有名な十戒ならば、

- ① 唯一の神様以外、あつてはならない。
- ② 偶像を造ってはならない。
- ③ 神様の御名を軽々しく扱ってはならない。
- ④ 神様との時間を聖別しなければならない。
- ⑤ 父と母を敬わなければならない。

- ⑥殺してはいけない。
- ⑦姦淫してはいけない。
- ⑧盗んではいけない。
- ⑨嘘をついてはいけない。
- ⑩他人のものを欲しがってはいけない。

まとめるとこのような内容になります。

日本の法律にも、殺人罪、強姦罪、窃盗罪、偽証罪など、他人に対する律法と同じ面があります。なぜこのような法律があるかといえば、破れば他人に危害を与える行為だからです。

同じように、神様の律法は愛するとはどういうことかを具体的に教えているものなのです。

だれに対しても、何の借りもあってはいけません。ただし、互いに愛し合うことについては別です。他の人を愛する者は、律法を完全に守っているのです。

「姦淫するな、殺すな、盗むな、むさぼるな」という戒め、またほかにもどんな戒めがあっても、それらは、「あなたの隣人をあなた自身のように愛せよ」ということばの中に要約されているからです。

愛は隣人に対して害を与えません。それゆえ、愛は律法を全うします。

ローマ 13 : 8-10

律法を破ることは、傷つけることです。そして、愛さないことなのです。

では、愛の行為である律法があるから、それを守れば良いかということ、そうでもありません。

パウロという人は、救われる前は誰よりも神様に熱心で、律法を忠実に守っている人でした。しかしそのパウロが、本当に律法を知った時、どのようになったのか告白しています。

それでは、どういうことになりますか。律法は罪なのでしょうか。絶対にそんなことはありません。ただ、律法によらないでは、私は罪を知ることがなかったでしょう。律法が、「むさぼってはならない」と言わなかったら、私はむさぼりを知らなかったでしょう。しかし、罪はこの戒めによって機会を捕らえ、私のうちにあらゆるむさぼりを引き起こしました。律法がなければ、罪は死んだものです。

私はかつて律法なしに生きていましたが、戒めが来たときに、罪が生き、私は死にました。それで私には、いのちに導くはずのこの戒めが、かえって死に導くものであることが、わかりました。

それは、戒めによって機会を捕らえた罪が私を欺き、戒めによって私を殺したからです。

私には、自分のしていることがわかりません。私は自分がしたいと思うことをしているのではなく、自分が憎むことを行っているからです。

私は、私のうち、すなわち、私の肉のうちに善が住んでいないのを知っています。私には善をしたいという願いがいつもあるのに、それを実行することがないからです。

私は、自分でしたいと思う善を行わないで、かえって、したくない悪を行っています。

ローマ 7 : 7-11、15、18-19

「むさぼってはならない」は、十戒の十番目の「隣人のものを欲しがってはならない」という戒めから来ています。十戒の中で、これだけが行ないではなく心の問題を扱っています。

パウロは、神様が「むさぼってはならない」と言われたときに、それが正しいと分かりました。しかし、自分の心が律法を見て逆らうのです。

神様が言われることは正しく、良いことなのだから、それはいのちに導いてくれるはずでした。しかし、自分の心に罪があるので、心の律法に従えず、激しい葛藤が生じたのです。

聖書は、例外なくすべての人が罪人であると宣言します。何が正しい行ないで、何が愛する行為なのか分かったとしても、従わない心をもっているのです。それは生まれた時から、罪の心を持ち、罪の奴隷となっているからです。

罪の奴隷であった時は、あなたがたは義については、自由にふるまっていました。

その当時、今ではあなたがたが恥じているそのようなものから、何か良い実を得たでしょうか。それらのものの行き着く所は死です。

ローマ 6 : 20-21

どうしたらその心を変えることができるでしょうか。努力して、訓練を積んで少しずつ改善されることでしょうか。人は自分で自分を罪から救うことはできません。

答えはただ、イエス様にだけあります。

イエス様は、罪ある人間と全く違う世界に本来いらっしゃるはずの神様です。私たちは律法を破るごとにこの方に対して罪を犯し、危害を加えていました。

しかし、ご自身で人間となってくださり、罪のさばきのためではなく罪の赦しをもたらすために来てくださいました。私たちの罪は、すべてイエス様が負ってくださいました。

この方こそ、自分の罪からの救い主であると信じるなら、例外なくどんな人でも罪が赦され、罪の支配から解放されるのです。

私たちの古い人がキリストとともに十字架につけられたのは、罪のからだが減びて、私たちがもはやこれからは罪の奴隷でなくなるためであることを、私たちは知っています。

ローマ 6 : 6

② 罪を犯さない唯一の道

だれでもキリストのうちにとどまる者は、罪を犯しません。罪を犯す者はだれも、キリストを見てもないし、知ってもいないのです。

子どもたちよ。だれにも惑わされてはいけません。義を行う者は、キリストが正しくあられるのと同じように正しいのです。

Iヨハネ3：4-7

4節の「罪を犯しません」という言葉と、同じように8, 9節にも出てくる「罪を犯さない」という言葉について補足しておくべきことがあります。そのまま読むと、罪を犯したことがある人はキリストを見て知ってもいないとなってしまいます。

元のギリシャ語では、「罪を犯さない」とも訳せますが、「罪を犯し続けられない」とも訳せるのです。イエス様に留まるのならば、罪に支配されてそのままになることはないという意味です。

このIヨハネの教会には、「罪を犯しても神の子どもだから平気だ」という人たちがいたようです。しかし、本当にイエス様に留まっているならば、罪とは決別されるはずで、なぜなら、イエス様は私を罪から解放するために来てくださり、いのちを下さったからです。

イエス様を信じるまで、私は罪の奴隷でした。しかし今は、イエス様とともにいることができるので、罪の支配から解放されました。

キリストは死者の中からよみがえって、もはや死ぬことはなく、死はもはやキリストを支配しないことを、私たちは知っています。

なぜなら、キリストが死なれたのは、ただ一度罪に対して死なれたのであり、キリストが生きておられるのは、神に対して生きておられるのだからです。

このように、あなたがたも、自分は罪に対しては死んだ者であり、神に対してはキリスト・イエスにあつて生きた者だと、思いなさい。

ローマ6：9-11

しかし、クリスチャンでも罪に悩むときは多々あるのではないかと思います。私も、自分自身の罪に悩むことの多い一人です。しかし、罪に悩まされず、罪から離れて生きることのできる道が一つあるのです。それもイエス様です。もしキリストに留まるなら、罪から守られます。

どうしたらイエス様に留まることができるのでしょうか。それはイエス様を知ることです。イエス様がしてくださったことを知り、イエス様がどのようなお方かを知ることです。すべてはイエス様の救いから始まったので、そこに絶えず立ち返ることです。イエス様がしてくださったことを忘れる時、罪を犯すのです。

おすすめは聖書を読むことです。

**神のことは生きていて、力があり、両刃の剣よりも鋭く、たましいと霊、関節と骨髄の
分かれ目さえも刺し通し、心のいろいろな考えやはかりごとを判別することができます。
ヘブル4：12**

みことは生きていますので、読む人の心を探ります。自分の心の状態や必要なことを神様が教えてくださるのです。

③ 悪魔からの救い主イエス様

罪を犯している者は、悪魔から出た者です。悪魔は初めから罪を犯しているからです。神の子が現れたのは、悪魔のしわざを打ちこわすためです。

だれでも神から生まれた者は、罪を犯しません。なぜなら、神の種がその人のうちにとどまっているからです。その人は神から生まれたので、罪を犯すことができないのです。そのことによって、神の子どもと悪魔の子どもとの区別がはっきりします。義を行わない者はだれも、神から出た者ではありません。兄弟を愛さない者もそうです。

Iヨハネ3：8-10

もう一つ、イエス様が新しくしてくださったことがあります。それは、悪魔の子どもだった者を、神の子どもにしてくださったということです。

悪魔は、人よりも先に神様に逆らい、自分が神になりたいと考えました。悪魔は今の世界の王です。すべての罪の後ろに悪魔の誘惑があり、世界を牛耳っています。悪魔のしたいことは、唯一の神様ではなく自分を拝ませることです。罪を犯す時、それは神様を愛さないことだけではなく、悪魔のしたいことをしているのです。

私たちも、かつては悪魔の支配の中において、愛を知らず、自分の罪の中に生き、滅びに向かっていました。それは悪魔の子どもと言われるほど、土台から悪魔の世界にいたのです。生まれた家を変えることは子どもにはできないことです。どこで何をしたとしても、その家の子どもであることは動かしがたい事実です。私たちが何者であっても悪魔の子どもだったのです。

しかしイエス様は、その生まれを神様に変えてくださいました。私たちが何者であっても、どんな時でも、神様の子どもなのです。また、どんな時でも神様がお父さんなのです。

神の子どもには「神の種」があると書いてあります。神の種が何を表しているのかは断言できませんが、きっと聖霊のことです。

この「神の種」は私たちの中にあって、罪を犯し続ける事ができないようにして下さるものです。どんなに変わろうとしても罪の中にならなかつた者を、罪を犯せないようにして下さるのです。ご聖霊だと思えます。

私たちの性質そのものを神様は既に変えてくださったということです。私たちの努力によって罪を犯さなくなるのではありません。ただ、神様が下さった救いと御霊によって、私たちは既に変えられているのです。

ですから、罪と悪魔の奴隷から解放された私たちには、罪が相応しくないのです。イエス様を信じた人は、どんな人でも罪の奴隷ではありません。どんな時でも悪魔の奴隷ではありません。神の子どもです。

罪を犯す犯さないという話だと、どうしても「罪を犯す私はダメ」となりがちですが、まずイエス様が私を愛していることを覚えましょう。愛してくださったから、罪と悪魔の奴隷から解放してくださったのです。その身分はいつも変わりません。

ですから、罪を犯した時に大事なのは自分を責めたり傷つけることではないのです。必要なのは、愛し続けてくださっている神様に謝り、悔い改める事です。

しかし、もし神が光の中におられるように、私たちも光の中を歩んでいるなら、私たちは互いに交わりを保ち、御子イエスの血はすべての罪から私たちをきよめます。

もし、罪はないと言うなら、私たちは自分を欺いており、真理は私たちのうちにありません。

もし、私たちが自分の罪を言い表すなら、神は真実で正しい方ですから、その罪を赦し、すべての悪から私たちをきよめてくださいます。

Iヨハネ 1：7-9

その上で私たちは罪を避け、イエス様のように清さを求めて行きましょう。

兄弟たち。あなたがたは、自由を与えられるために召されたのです。ただ、その自由を肉の働く機会としないで、愛をもって互いに仕えなさい。

ガラテヤ 5：13

最後に暗証聖句を読みましょう。

愛する者たち。私たちは、互いに愛し合いましょう。愛は神から出ているのです。愛のある者はみな神から生まれ、神を知っています。

愛のない者に、神はわかりません。なぜなら神は愛だからです。

神はそのひとり子を世に遣わし、その方によって私たちに、いのちを得させてくださいました。ここに、神の愛が私たちに示されたのです。

私たちが神を愛したのではなく、神が私たちを愛し、私たちの罪のために、なだめの供え物としての御子を遣わされました。ここに愛があるのです。

Iヨハネ 4：7-10

【説教者:堺希望伝道師】